

百人一首



百人一首

百人一首

山田家



天智天皇御製

秋乃田わらひの席乃と海もあえ
わらふてしあふぬきし

持絶天皇御製

春さくら夜まにさくら 白妙
衣はさくらさくら乃あけし

柳春人

足引のふらねもの志よりおろ
かすく——紙楊のそん

山を赤人

田子おににうらむるまは白あそ
ゆ——のり雪はうらつ

猿丸太史

おとしはらうらむけなくあ
るまうけう秋とけた

中納言持

鶴のこころは——よくあそ
——うらむあそむはう

お隣仲摩

わきのうめはあまきほのすけ
ふさちやもいふ月を

お梅法師

わが庵を却れし人のあそびを
いそぐらとて人といふなり

小野ふし

花のうさぎはうさぎのうさぎに
わが力なうさぎあそびは

煙丸

あはれこのゆきと人はいわさへ
いそぐらとて人といふなり

泰議集

まのさへ十端けく湯やねと
くはひきまのいのちを

儒正編昭

あまのせきふくひち吹くら
し女乃らこ秋もやうそ

陽成院

清くまの岩より落るみ乃川
えそつとくく割とありあは

河原元大臣

みらのく乃きのふそらとら誰ゆ
みれそあふくむるうけり

お茶屋の主人

あつちの主人は、お茶屋の主人に
お茶を飲む人

中納言平

まが、お茶の主人は、お茶の主人
まが、お茶の主人は、お茶の主人

お茶屋の主人

お茶の主人は、お茶の主人に
お茶を飲む人

お茶屋の主人

お茶の主人は、お茶の主人に
お茶を飲む人

何處

あふらふこゝろにわのゆゑのまゝ
あふらふこゝろにわのゆゑのまゝ

元正親王

信女まはるはこゝろにわのゆゑのまゝ
あふらふこゝろにわのゆゑのまゝ

素性法師

今もひとひらきふらふらふらふ
わがゆれ月をまらふらふらふ

文彦康秀

あふらふこゝろにわのゆゑのまゝ
あふらふこゝろにわのゆゑのまゝ

大に千里

月をさぐりてわづらひ
わづらひにの秋はあはれ

菅家

あはれをわづらひてわづらひ
わづらひてわづらひてわづらひ

三條公家

あはれをわづらひてわづらひ
わづらひてわづらひてわづらひ

貞任

あはれをわづらひてわづらひ
わづらひてわづらひてわづらひ

中納言御書

見ればわらうくみあけいつく
いつくまぶくまうがふれ

源宗平朝臣

山内とも冬えけひさゆけり
くも草もかきぬとけり

仁河内親王

ふあくはらうやわらんま
と記もとせらるる筆のはか

正生忠孝

まゐるつまわくみえり
あつさけらるる御書

海老名則

初はさきもわらふ月こみふもくへい
うのちこくもきふもくへい

春道子樹

山河は風ろけくはーかみ
ろれもあふぬもくへい

紅衣則

久々の若れとけくもくへい
きふもくへい

藤原無風

惟もくへい
木もくへい

紅貫之

人こそとてしるはありけり

あそびしころもたよりいふ

法原漢文

あつたはもていふしあけぬを
ききいつしきやふし

文彦朝康

あつた風乃てしるは秋の雪

つねとあぬをてけりあり

右近

あつたもていふしあけぬを

人乃余のけしきありけり

平重盛

あつちのうへにちよふらうわんを
あつちのうへにちよふらうわんを

泰議奇

あつちのうへにちよふらうわんを
あつちのうへにちよふらうわんを

正生忠見

あつちのうへにちよふらうわんを
あつちのうへにちよふらうわんを

清原元輔

あつちのうへにちよふらうわんを
あつちのうへにちよふらうわんを

権中納言致書

のひまへのなるいふくぬまは
じはおもなふちりあふ

中納言致書

なまういふくぬまは
くふまふふちりあふ

権中納言致書

のひまへのなるいふくぬまは
じはおもなふちりあふ

中納言致書

のひまへのなるいふくぬまは
じはおもなふちりあふ

惠慶法師

[illegible]

源

風といふ名は海のもの
とけく物成ふところなり

そけくわやうころ

茶中神品

見ゆにあり 御書ありて大なる事
なりはとぞ思はれぬ

新はるき
やうに

藤原為

[illegible][illegible]

花あけの朝に

あけの朝に花あけの朝に
うきうきうきうきうきうき

藤原道隆に

あけの朝に花あけの朝に
うきうきうきうきうきうき

花あけの朝に

あけの朝に花あけの朝に
うきうきうきうきうきうき

花あけの朝に

あけの朝に花あけの朝に
うきうきうきうきうきうき

大御堂に

勝乃幸い終るる一もひりや
あしうのわておひさうえあれ

和泉木部

わしんこのせかろやひり
いほりひりろりやうと部

和泉木部

わしんこのせかろやひり
あしうのわておひさうえあれ

和泉木部

わしんこのせかろやひり
あしうのわておひさうえあれ

志摩津門

志摩津門のふちを
めぐりてはるかに
見ゆ

志摩郡

志摩郡のふちを
めぐりてはるかに
見ゆ

志摩大浦

志摩大浦のふちを
めぐりてはるかに
見ゆ

志摩細川

志摩細川のふちを
めぐりてはるかに
見ゆ

たまたま道雅

となくおもひ給ふんときりて
くはくはそいふうとや

指中納言頼

細はもころれはうらさく
わはもわさうのあらま

相模

うらふひはめはく
あはれんうらうら

大徳寺の尊

あはれんうらうら
あはれんうらうら

因防内侍

春はよの多きうらけのまへに
ひびきききんきうけり

二条院

らふもあてられぬうらけ
きききききききききき

信濃守

あつてきききききききき
うらけのまへにきききき

信濃守

きききききききききき
うらけのまへにきききき

大酒も経る

夕ちまたにのこるよき

けりあやうけをきく

祐貞親王

きにやうの漢をわきわき
けり神れあやうき

権中納言

ふみ乃のちのちのち

あられふすこすこ

源後頼朝

うめりふくふくふく

ふけふけふけふけ

藤原基俊

美と記す所のいふ所のいふ

わかれし秋といふあり

はねるる鳥の音

わいのうのうのうのうのう

あはれはははははははは

紫雲院

あはれはははははははは

あはれはははははははは

海

あはれはははははははは

あはれはははははははは

たまふす願ふ

秋風いづかきてふかき

ふも月せいのちもい

詩賢に師

かきせんもいづかきふも
いづかきふもいづかきふも

はははるる大官

かきふもいづかきふも

いづかきふもいづかきふも

道圓に師

かきふもいづかきふも
いづかきふもいづかきふも

皇太子御成

幸らるるにやまひ入

らるるにやまひ入

東清御成

がくしにのびるる

うしにのびるる

後清御成

あつたにやまひ入

あつたにやまひ入

あつたにやまひ入

あつたにやまひ入

あつたにやまひ入

寂蓮法師

じふのゑとていふ木の葉のま
きこられけり木の葉のま

寂蓮法師

難波にわかれけり木の葉のま
きこられけり木の葉のま

寂蓮法師

あつたけがけり木の葉のま
きこられけり木の葉のま

寂蓮法師

あつたけがけり木の葉のま
きこられけり木の葉のま

後世に傳へたるは

夢の如きものなり

二重に續く

わが世に生るるものなり
くふくふはくふ

鑑心居士

世に生るるものなり
わが世に生るるものなり

赤松雅臣

わが世に生るるものなり
わが世に生るるものなり

後鳥羽院

人とはくもつてあつた

順徳院

百もあつたあつたあつた

百人一首終

山田家

元年

山田式部藏

